

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital News



独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センターニュース

No.69

令和2年9月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2
- ・ 講演会のご案内 2

病院のトピックス

- ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大に対する取り組み
～病病連携において何が起きていたのか 第一波を振り返る～ 3
- ・ 放射線科 部署紹介 6
- ・ ドクターカーとDMATカーの寄附のお礼に
写真を送りました 10
- ・ COVID-19診療へのご支援について 12
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 14
- ・ NHO PRESS ～国立病院機構通信～について 14
- ・ がん相談支援センターのご案内 15

独立行政法人
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

令和2年9月発行 69号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <https://osaka.hosp.go.jp>

[E-mail] 408-comonh@mail.hosp.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

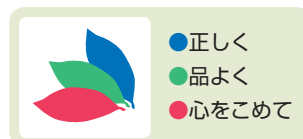
- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職 名	氏 名	異動内容
R2.10.1	専攻医（外科）	大津 周	採用
R2.10.1	専攻医（整形外科）	中嶋 哲史	採用

退職医師

異動年月	職 名	氏 名	異動内容
R2.9.30	整形外科医師	山下 智也	退職
R2.9.30	消化器内科医師	赤坂 智史	退職
R2.9.30	脳神経外科医師	高野 浩司	退職
R2.9.30	専攻医（呼吸器内科）	恵比須梨華	退職
R2.9.30	専攻医（外科）	瀬戸 郁美	退職
R2.9.30	専攻医（外科）	坂野 悠	退職
R2.9.30	専攻医（外科）	瀬戸 寛人	退職
R2.9.30	専攻医（整形外科）	佐々木うらら	退職

講演会のご案内

開催日時	件 名	内 容	対象者
—	—	—	—

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問 合 せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

新型コロナウイルス感染症感染拡大に対する取り組み ～病病連携において何が起きていたのか 第一波を振り返る～

国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携推進部 医療福祉相談室 医療社会事業専門職 太田 裕子

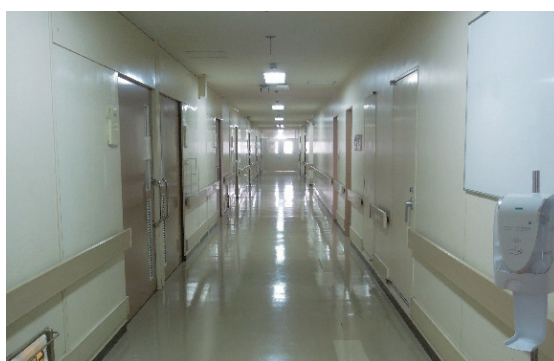
世界中で新型コロナウイルスの感染症が猛威を振るっています。日本国内においては、政府が2020年4月7日に緊急事態宣言を行い、16日に全都道府県を緊急事態措置の対象としました。5月25日には大阪府を含む全都道府県での緊急事態宣言が解除されましたが、引き続き感染拡大への対処は続いています。

当院でも、新型コロナウイルスの感染拡大に対して、支援が必要な方々の生命及び生活を守るために、最前線での予防の工夫も重ねて院内整備を行い、検査や治療等に携わってきました。

【休眠病棟の利用】



【病院出入口での検疫】



【陰圧ルーム】



【物品が不足する中『DIY』に取り組む救命救急センタースタッフ】



【治療にあたる救命救急センター長】



医療機関における新型コロナウイルスによるクラスター（集団感染）発生事例は多く、高齢者や抵抗力が低下した患者のいる医療機関では、ひとたびウイルスが入り込むと、感染が拡大しやすい傾向にあります。感染が医療従事者に及んだ場合、医療機関は深刻な人手不足にも直面します。

感染拡大の第一波時、地域医療機関や介護施設においてクラスター（集団感染）が発生する中、規模が大きかった事案が、なみはやリハビリテーション病院でした。

当院には、敷地内に厚生労働省DMAT事務局があり、厚生労働省本省や大阪府からDMAT事務局へ他の医療機関のクラスターについて相談が入っているような状況でした。そのような状況下でDMAT事務局から、なみはやリハビリテーション病院への支援の相談が、当院のソーシャルワーカーに入りました。

『病病連携で、障害者病棟患者30名を大阪医療センターで引き受けてほしい。陰性患者の一時受入相談であるが、調整できるスタッフがいらない。助けてほしい』

なみはやリハビリテーション病院障害者病棟は、旧今里胃腸病院から引き継がれています。2008

年から発足した大阪緊急連携ネットワーク（大阪府下3次救急医療機関と慢性期医療機関の病病連携の取組）において協力医療機関として、長年当院の救命救急センターに搬送された患者さんの後方受入先医療機関として、長期療養目的の重症患者さんを引き受けていただいていた病棟でもありました。

感染者が増える中、転院調整は時間との勝負、組織として受入可否の決断が必要でしたが、院長以下幹部の判断により当院はただちに受入対応する方針に至りました。ソーシャルワーカーの立場では、院内外との連絡調整に動く役割を担いました。

なみはやリハビリテーション病院の所属する生和会グループ法人事務局 病床管理部部長であるソーシャルワーカーへ連絡を入れ、グループ内調整をお願いし、現場との調整業務、患者家族への連絡調整業務等を行っていただきました。旧今里胃腸病院障害者病棟に転院に至る前の紹介元医療機関をリストアップし、カルテが存在する紹介元医療機関へ一時受入の打診が開始されました。また、大阪府下3次救急医療機関の中で、一次的に受入できる医療機関がないかも打診しました。

調整の中で、当院から転院に至った患者さんが、障害者病棟に多くおられることが分かりました。それらの患者さん全てのケースが当院ソーシャルワーカーの介入した支援により転院されておりました。長期の方は転院後10年以上療養されておられました。

当院が、これらの人工呼吸器患者、気管切開患者の重症の患者さんを多数受入するにあたり、迅速な対応が必要であり、看護部長をはじめとする幹部、看護スタッフの機動力が大いに発揮された場面でした。また、受入対象患者さんは新型コロナウイルス感染症陰性確認がされた方々でしたが、

万が一の際の院内感染を防止するために陽性患者に準じた対応を行うこととなりました。

看護部長室の的確な指揮・助言のもと、患者さんのケアのこと、院内の感染対策のこと、看護配置、検査対応等々、きめ細かく、迅速に受入準備の対応が行われました。休眠病棟を活用した受入が決定され、院内感染を防止・予防するゾーニングを行いました。

また、新型コロナウイルス対策のため導入した当院の人工呼吸器を使用すると、人工呼吸器の台数が足りなくなる恐れがあり、このためなみはやリハビリテーション病院で患者さんに使用されていた人工呼吸器をそのまま当院で利用できるよう調整することができましたが、新たな人工呼吸器の使用方法をメーカーから、緊急で当院スタッフがレクチャーを受ける場面もありました。

当院では「陽性患者に準じた対応を行う」という方針のもと、感染予防に努め、転入時と転院前にはPCR検査を実施しました。「陽性患者に準じた対応」の難しさは、陽性患者と同じ環境調整、看護対応を整える必要があるということです。他院への転院相談の問い合わせの際にも、『陽性患者用にベッドを確保しておきたい。陽性の場合、大阪府入院フォローアップセンターを通して対応調整が可能だが、陽性になるかもしれない陰性患者に対応する余力がない』などの声が聞かれました。

混乱の中、多くの患者さんを一斉受入するにあ

たり、大阪市消防、民間救急だけでは短期集中の患者搬送が困難なことから、当院の保有する更新したばかりの新ドクターカーもフル活用し、転院搬送を行いました。最終的には6名の患者さんを当院で受け入れました。

受入対応した患者さんに対して、制度利用や社会資源の活用が必要な患者さんにつきましては、ソーシャルワーカーも一丸となり個別支援対応いたしました。

院内外多くの関係者の協力のもと、なみはやリハビリテーション病院障害者病棟入院患者への支援が達成できたものと考えております。

クラスター（集団感染）発生の事案は、災害時の対応に匹敵するぐらい、緊急を要する事案もあり、組織としての迅速な動きが必要です。一時的に避難する病床の確保や他医療機関への支援に關しての組織としての理解、協力体制がなければ、動きがとれません。有事・災害時多数傷病者の受入をするという日ごろからの職員の意識づけや組織の力が問われた事案でした。

今後も当院スタッフが、地域医療機関、関係機関、地域住民（患者家族等）のお役にたてる立場で診療支援ができるよう、その時その時の工夫を重ねながら、精進していきます。

ご尽力いただきました関係機関、関係者の皆様、患者家族の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

【患者搬送のためドクターカー車内を養生】



【患者搬送支援（スタッフ出動）】



放射線科 部署紹介

今回は放射線科の紹介をさせていただきます。統括診療部 放射線科は放射線診断科と放射線治療科があります。全体では診療放射線技師35名、放射線診断科医師7名、放射線治療科医師3名、看護師4名、クラーク3名の合計52名体制で各診療を行っています。

その中でも今回は放射線診断科「MRI室」の紹介をさせていただきます。MRI検査室は主任1名、技師3名の合計4名の診療放射線技師と画像診断医1名、看護師1名、クラーク1名の7名体制で、年間約1万件の検査を行っています。

MRI検査とは、強い磁石と電波を用いて生体内の水素原子から信号を取得し画像化する検査です。MRI検査と聞いて皆様が思い浮かべるのが、音が大きくて、狭いトンネルの中で長時間検査をするといったマイナスのイメージが浮かびますが、放射線被ばくが無く、画像診断においては欠かすことができない検査です。

今回当院で稼働している2台のMR装置についてご紹介させていただきます。

①3T (テスラ)-MRI装置 ドイツ SIEMENS社製 MAGNETOM Skyra 3.0T

『3Tの高精細な画像を提供！』

『70cmの広い空間で検査を行います！閉所恐怖症の患者様でも安心です！』

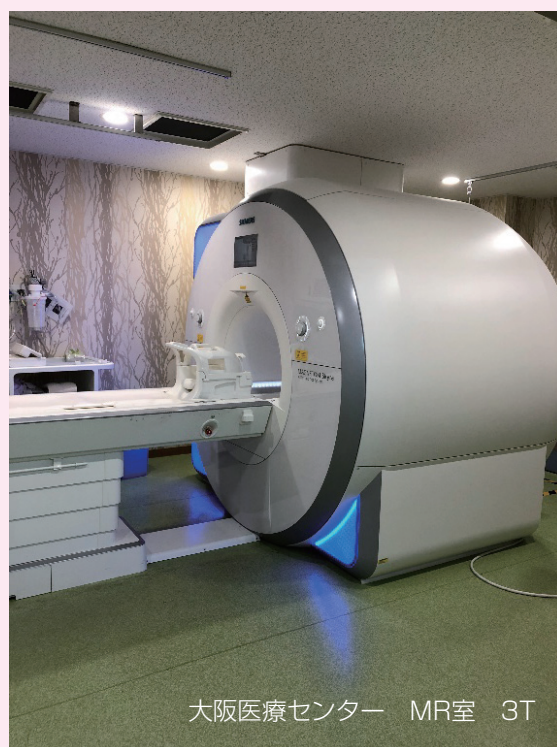
従来の1.5T装置と比較して3Tの強い磁場で検査をすることでより強い信号が得られるため画質の向上や高精細な画像を提供できるようになりました。

70cm径のワイドボアを採用しましたので、閉所恐怖症の方や小さなお子様、仰向けに寝られない高齢者の患者様でも安心して検査を受けることができる環境となりました。

・ Quiet Suite

～やさしい静かさ、妥協のない画質～

新しい技術『Quiet Suite』は高画質を担保しながら従来と比べて70%以上のノイズリダクションを実現しました。ノイズを抑えることにより、静かな検査が可能になり、より患者様の心理的負担を軽減し、やさしい検査を実現します。



大阪医療センター MR室 3T

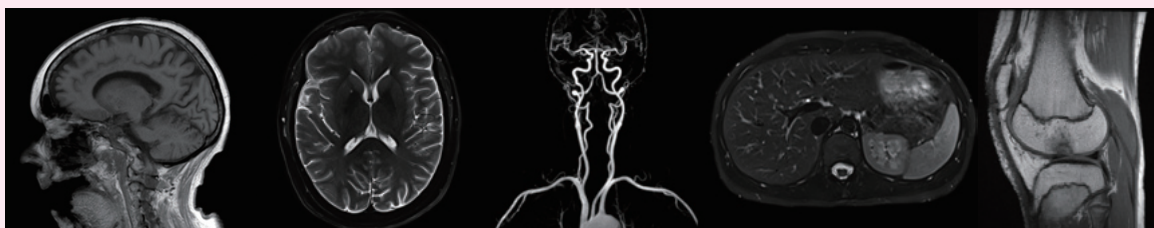
・FREEZEit ～3D造影検査への新しいアプローチ～

FREEZEitは、様々な状況下における3D造影検査で高画質の画像を得るためのアプリケーションです。“StarVIBE”と“TWIST-VIBE”の撮像シーケンスが含まれ、それぞれ動きの抑制と高い時間分解能を実現する撮像が可能です。

・MyoMaps ～心臓検査における新しいアプローチ～

心筋検査において視覚的な評価だけでなく定量評価を目的としたアプリケーションです。

ピクセル単位の定量値を評価することで、正確な診断をサポートします。1回の息止め撮像によりT1, T2, T2* map が自動的に計算されます。



画像提供：シーメンスヘルスケア（株）

②1.5T（テスラ）-MRI装置 オランダ PHILIPS社 Achieva dStream 1.5T

『新しくなりました！ 2019年9月に導入しました！』

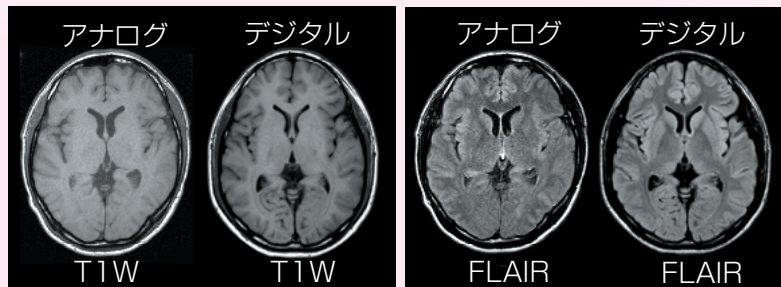
『Compressed SENSEにより大幅に検査時間が短縮します！』

・dSyncテクノロジー

受信系のdStream機構に送信系のデジタル通信を加えた送受信デジタル制御システムです。グラジエントコイルやRFコイルなどを高速で同期・制御することで、最適な撮像を実現することに加え、画像再構成時間も大幅に改善されます。dStream機構の採用によりMR信号をRFコイル内でアナログからデジタルに変換するデジタルコイルが使用可能となり、SNRの向上などの高画質化が可能となります。より鮮明な画像で診断と撮像時間の短縮を実現します。



大阪医療センター MR室 1.5T



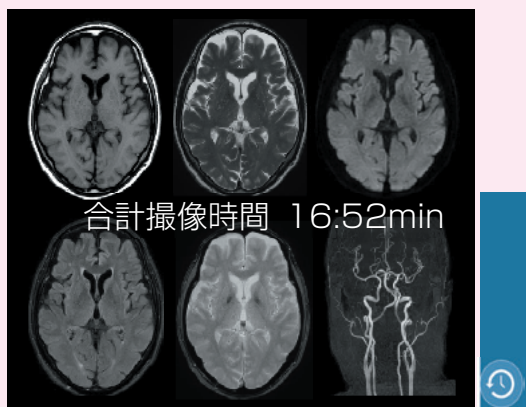
画像提供：(株) フィリップスジャパン

dStreamのデジタルコイルによるT1Wの撮像ではSNRの向上に伴いコントラストも改善されています。FLAIRの撮像では撮像時間を短縮しても高SNRであり、コントラストも改善しています。

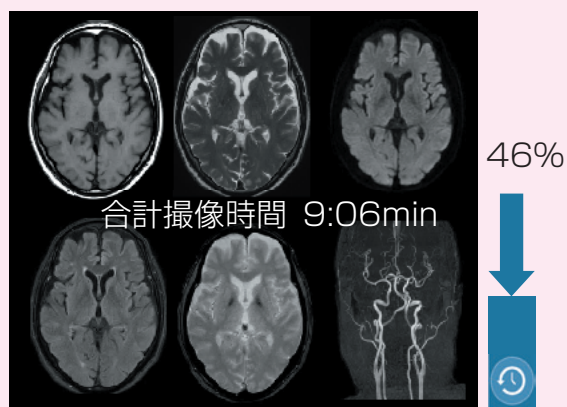


・ Compressed SENSE法の導入・・・検査時間の短縮が可能です。

最新アプリケーションのCompressed SENSE法は、従来の撮像法に併用することにより、撮像時間の大幅な短縮が可能になります。検査時間の短縮や、検査中の息止め時間を短縮した優しい検査も可能となります。同じ撮像時間で空間分解能やコントラストなどの画質を改善することも可能となります。



従来法の撮像



CompressedSENSEによる撮像
撮像時間が46パーセント短縮

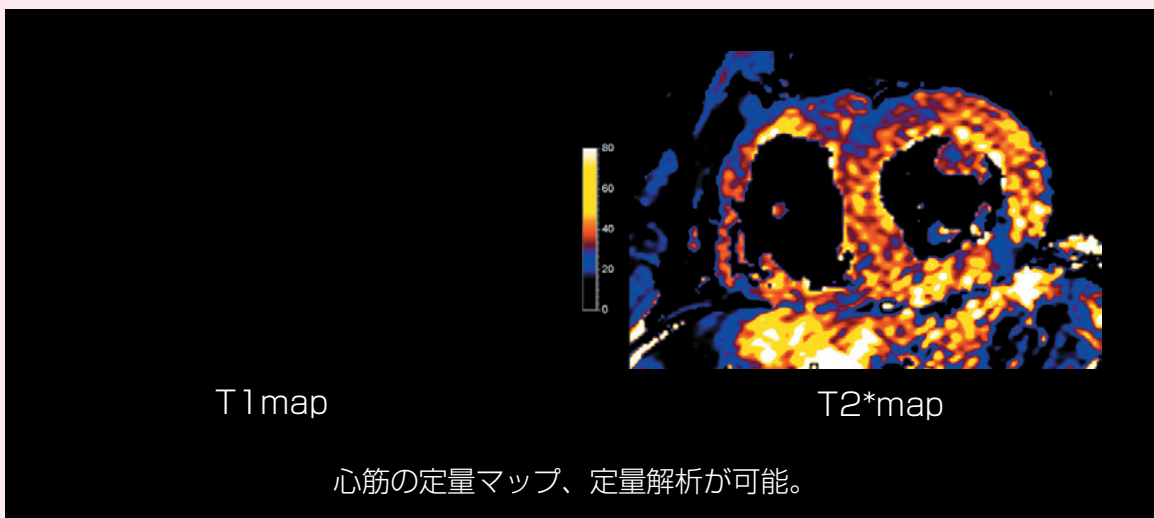
画像提供：(株) フィリップスジャパン

・動き補正技術 MultiVane XD

・・・息止めができない患者様や動きのある患者様にも高画質の画像が提供できます。



・心筋の定量解析・・・心筋の定量マップ、定量解析が可能です。



画像提供：(株) フィリップスジャパン

放射線科はこの2台の最新の機種で、毎日フル稼働で検査を行っています。

MR検査は吸着事故や熱傷などの重大なインシデント・アクシデントが隣り合わせの検査です。

放射線科一同、日々医療安全にもチーム一丸で取り組んでいます。MR安全講習会も定期的を開催しており情報共有を病院全体に発信していますのでより一層のご理解とご協力をお願いいたします。



国立病院機構 大阪医療センター 企画課 契約係長 上門 誠



DMATカーの車種は三菱のアウトランダーPHEVで、いわゆるプラグインハイブリッドカー



けん引車両は大阪府三島救命救急センターが初めて導入した車両です。救急車へ資材を積んでDMAT活動を行ったところ、資材の保管スペースを確保できず救急車へ乗せっぱなし、結果、救急車としての役割を果たすことができなかった、という経験を反省し、車両兼資材保管庫として整備されたようです。

当院のDMATカーは積載量が足りないため、このけん引車両を導入することとなりました。必要な資材を積んでおけば、いつでもすぐに発進可能です。

運転は慣れが必要ではありますが、特別な免許は必要なく、普通免許で運転できます。活動の際には現地本部に置いておけば、いつでも必要な資材を持ち出すことができます。ドクターカーは現地本部としての設備を備えているため、3台合わせて大阪医療センターがDMAT活動をする際には欠かせません。

現在、車両に加え、資材の買い換えも進んでいます。今後はドクターカー搭載用の医療機器も新しくしていけたらと思います。



信頼と感謝

COVID-19診療へのご支援について

COVID-19の診療にあたる当院へ多くの企業、団体、個人の方々よりご寄付を頂戴致しました。診療に携わる職員へ配布させて頂いております。一部ではありますが、ご紹介致します。ご寄付頂いた物品は、当院の医療活動に有効活用させていただきます。

森永製菓株式会社

Inゼリー／キャラメルクリスピー



ロート製薬株式会社

マスク・リップクリーム・ハンドクリーム等



株式会社モンベル

防護具

通院中の患者さんに対する健康チェックを出入口で行っています。



医療従事者の皆さま
ありがとうございます!
頑張ろう! 日本
アウトドア救援隊
mont-bell

株式会社ケイファクトリー

SNAP2020





日本IDDMネットワーク／
特定非営利活動法人アジアパシフィック
アライアンス・ジャパン

Inゼリー／ビニールガウン



大塚製薬株式会社

OS-1PET／OS-1ゼリー



松井製作所

フェイスシールド



子供たちが書いた応援のメッセージも頂きました。



この他、中央区東医師会や大阪府看護協会、近畿管内の機構病院、近隣の開業医の方々、患者さんなど多くの方から、N95マスクやサージカルマスク、防護服のご寄付を頂戴致しました。

今後もマスクの着用や換気等を心がけ、職員一丸となって感染対策に取り組んでいきます。



脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるように、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

NHO PRESS ～国立病院機構通信～について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



QRコード



NHO PRESS

検索

大阪医療センター

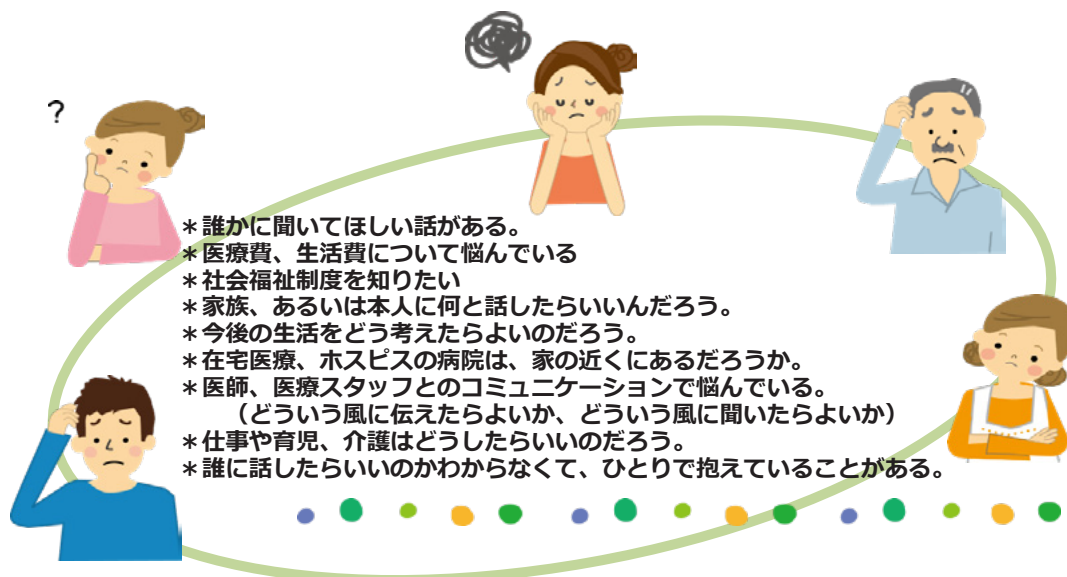
がん相談支援センター のご案内



患者さん・ご家族の皆さまが、治療を受けながら考えておられること、生活の中で抱えておられるお気持ち、などお話を聞かせていただくことにより、悩みやお気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。
お気軽にご利用ください。

相談料は無料で、相談内容における個人情報厳守いたします。

* ご入院中の方は、ご希望により、病室までお伺いいたします。



相談にあたっては、患者さんやご家族のお考えやお気持ちを尊重し、できるだけみなさまご自身で問題の解決を図れるよう支援をいたします。

■ 大阪医療センター・がん相談支援センター ■

☎ 06-6942-1331 (代表)

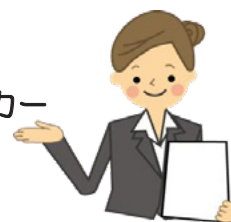
【月曜日～金曜日】 9:00～16:00

外来休診日はお休みです

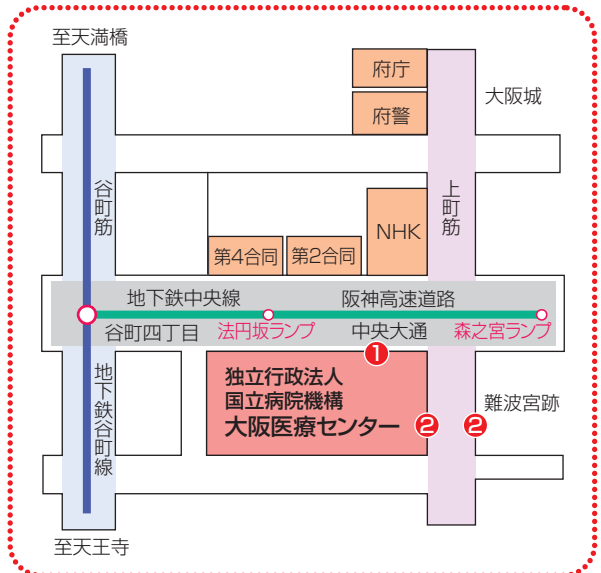
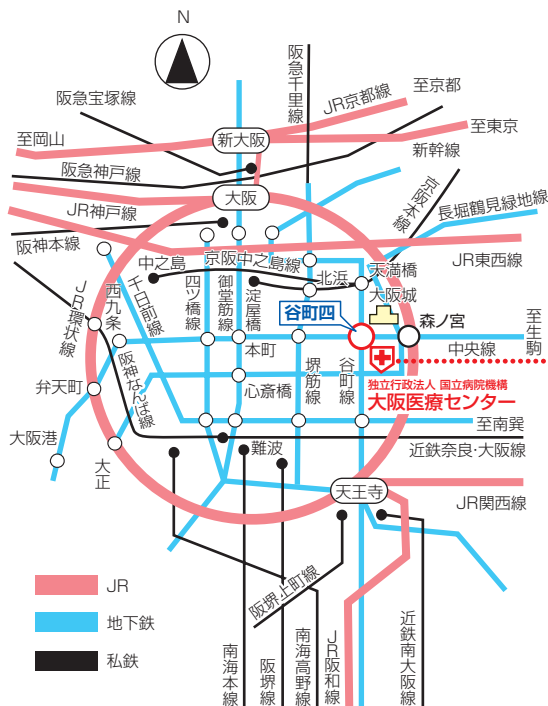
相談対応：看護師・医療ソーシャルワーカー



がん看護相談も
やってます



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バ ス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。